

## 令和6年度 中野市総合教育会議 会議録

- 1 日 時： 令和7年2月10日(月) 午後2時00分 ～ 午後3時28分
- 2 場 所： 中野市役所5階 会議室51
- 3 出席者： 市 長 湯本 隆英  
教育長 柴本 豊 教育長職務代理者 小野 良一  
教育委員 齋藤 文子 教育委員 山本 浩二  
副市長 竹内 敏昭 総務部長 栗林 淳一  
教育次長 柴本 清天 学校教育課長 小橋 俊樹  
生涯学習課長兼図書館長 大塚久良  
中央・西部・北部・豊田公民館長 宮澤 博之 博物館長 舘林弘毅  
南部・北部学校給食センター所長 大沢 英樹  
学校教育課 総務係長 鈴木 洋二 副主幹 池田 真理子  
指導主事 和田 恒弥
- 4 傍聴者： 6名（うち報道関係3名）
- 5 会議事項： 進行 湯本市長

### (1) 第2次中野市教育大綱の進捗状況について

学校教育課長、生涯学習課長兼図書館長、中央・西部・北部・豊田公民館長、博物館長、南部・北部学校給食センター所長が資料1・資料2に沿って説明

湯本市長：ただいま説明のありました5つの柱について、順に進めて参りますが、まず、1の「信州なかの ふるさと学習の推進」について、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

山本委員：②の農業体験や地域の食材を使った食育などの項目の今後の取組や課題等について、「食材の高騰、農業の担い手不足により、地元食材の確保が難しい。」とありますが、どのように今後対応していくのか、また、対策をお聞かせいただければと思います。

学校給食センター所長：担い手不足により一番影響を受ける食材は野菜になります。野菜はJA中野市の生きがい農業者の会から多く仕入れています。一番多い時は会員が200人位いたそうですが、高齢化に伴い約半分程度まで減ってきており、JA中野市でも今必死に会員の募集をしたり、生産拡大に力を入れています。野菜は引き続き、生

きが農業者の会から仕入れることとしていますが、時期によって野菜がない、量が足りないというような場合は、市内の青果店から仕入れています。物価高騰については、キャベツなどの値段が高いときには、安い食材の大根やもやしを使った献立を栄養士が考えてくれています。

齋藤委員：中野市は、キノコやブドウ、いろいろ特色のある地元の物がたくさんあるので、それを給食に使ってもらえるのはありがたい。地元の食材を使った「おやき」、「やたら」もいい。高社小学校では、「よもぎ団子」、「ニラせんべい」を作ったりしている。昔から食べている郷土食を作ってもらえれば、子ども達がこういう物を食べたなあという思い出になっていいと思います。

湯本市長：給食センターでは、そうした取組みは可能ですか。

学校給食センター所長：給食センターでは、学校へ行って、そうした物を作ったり、子ども達に作り方を教えたりすることは難しいですが、学校で地域の方をお呼びし、そうした取組みを行っているかと思います。子ども達のためだけでなく地域の活性化にもつながり、継続していければいいと思います。

小野教育長職務代理者：③の今後の取組や課題に、「座学だけでなく文化財の現地見学会や体験型講座ワークショップ等を開催するなど多様な学習機会を提供する。」とあります。博物館等々がすばらしい取組み、企画をされているのがわかりますが、学校の先生たちに聞いてみると、そこへ行くための移動手段、バスの値段が非常に上がってしまい、グランセローズを見に行ったときもそうでしたが、いろいろな体験を子ども達に積ませたいが、交通費がかかるため、なかなか行かせられない。費用を考えると尻込みしてしまうような状況が多いと思います。学校の外に出て体験したり、或いは文化財について学んだりする機会を保障するために、スクールバスなどを校外学習に頻繁に使えるような制度を工夫してもらえれば、今後そうした方向の学習が増えてくるかと思います。

学校教育課長：校外学習等に関する移動手段については、スクールバスの活用、公共交通機関を利用した移動、学校ごとのバスの手配、また、市の方でも行政バスの使用について協力いただいているところであり、市教委も学校からの申請に応じて、借上げバスの手配をしているといった状況です。

湯本市長：足りない部分は、課題としていただきたいと思います。

柴本教育長：「信州なかの」ふるさと学習の推進は、教育大綱の基本理念が「ふるさとへの愛着と豊かな社会性を身につける教育の推進」ということで、一番大きな柱の部分になると思っています。総合的な学習の時間を活用し、地域との関わりを持った事業に取り組むことを現状やっています。教育委員会として特に考えているのは、中野市も

広いため、4中学校区の中で地域の関わり方、関わる内容、産業等も違ってきますので、4中学校区単位で総合的な学習の時間を充実させていきながら、ふるさとへの愛着を子ども達に持ってもらえるような教育を継続していきたいと考えています。令和7年度から県に「トコトン」が認定された南宮中学校区ですが、そうしたものを活用しながら、地元のよさを知っていただいて、いろいろな所に出ていっても、また中野に帰ってきてくれるとありがたいなと、そのような教育をしていきたいと考えています。

湯本市長：信州中野の歴史や特性、地域の食材という中で、ご覧になられた方もいらっしゃるかもしれませんが、テレビで地域の取組みを紹介する番組をやっていて、青森の下敷きで、いろいろな種類のリンゴが載っていて、子ども達は小さい頃からその下敷きを見ていて、このリンゴは何かというと、これは「王林」、これは「ふじ」というように答えることができ、リンゴができる過程、剪定の仕方などがわかるというものでした。中野市の場合でしたら、下敷きの中に農産物がいいのか、または、地元の著名な例えば高野辰之先生や中山晋平先生の曲はこういう曲があるとか、小さい頃から使っているうちに、無理に学習しなくても自然と覚えて、市外へ出て聞かれたときに地域のことを答えられる。美術家もいらっしゃるわけだから、町田<sup>きよこう</sup>曲江さん、菊池一雄さん、菊池<sup>けいげつ</sup>契月さん、この地域にはこういう方がいらっしゃるという物もいいかなと感じました。

それでは次に、2の「未来のふるさとを担う子どもたちを育むまちづくり」について、ご意見・ご質問など、お願いします。

斎藤委員：信州型コミュニティスクールについて、高齢化に伴って新しい人を探すのが大変だということですが、何か方策を考えておられるのか教えてほしいと思います。

学校教育課長：学校ごとのコミュニティスクール運営委員会の方にも入っていただいておりますが、あくまでボランティアという活動の中で、学校の支援にあたることができる時間帯、子ども達がいる登校から下校までの日中の時間という中での登下校の見守り、学校行事の支援など、普段ご自宅にいらっしゃる方が主になってくるのかなと感じております。支援いただいている方も年齢を重ねる中で、若い世代の皆さんが学校にどのように関わっていただけるのか、学校と地域との関わりの中で一緒に考えていけたらと思っています。例えば、以前、地域の顔見知りの方が小学校で庭の落ち葉を掃いていただいている姿をお見かけし、お聞きしたら空いている時間だからと、そうした形の活動をしていただける方、また見ていただける方が増えてくるならば、それも嬉しく感じます。

湯本市長：「学校だより」などで、ボランティアの募集を行ったりしていますか。

学校教育課長：学校から発信しているものと思います。

山本委員：ボランティアの方とか、多分確保が難しいと思いますが、やられていることは大変すばらしく、地域に貢献されている方だと思いますので、「広報なかの」で取り上げるとか、その方たちがやられているから地域がこうやってできているというような発信もあっていいのかなと思いました。

小野教育長職務代理者：子ども達を育むまちづくりの中で、第2次中野市教育大綱の後、第3次ということで策定しますが、時代が変わったからといって、新しいものに乗ぐに乗り換える、流行に乗るといような形ではなく、例えばここでいう中野市が昔から大事にしてきている読書活動、心を育てるという意味では非常に大事な活動だと思います。時間がかかりますが、今のこういう世界中荒れた心の状況の中で、人間らしい思いやりだとか、そういうものをやはり小さい素直なときに育む、そういう活動をスタートしてきていると思いますので、これはぜひ次の教育大綱の中でも中野市として大事にしてほしい。また、同じようにキャリア教育、非常に今までも大事にしてきている教育だと思いますので、引き続き大事に活動の柱として取り上げてほしい。それからさらに言わせていただくと、各学校で学校の活動の柱というものを、例えば南宮中でいえば、合唱、掃除、あいさつ。高社中もそうした形でやっていますが、教育の進歩を見据えて、毎日毎日の活動の中で、少しずつそうした我慢する力、感謝する力、工夫する力、いろんな大事な力を、一朝一夕にできないので、じわじわ育てていく。そうした中野市の教育のあり方というのは、是非この次の教育大綱の中でも大事にしてほしいと思います。

柴本教育長：読書の関係ですが、各学校で毎朝登校した後に読書する、授業開始前に読書の時間を設けている、こうしたことを積極的にやっている学校は、学校図書館の利用率も高くなっている。やはり、この読書、本と触れ合うことはすごく大切なことだと思っております、こうしたことも継続して、次の教育大綱の中でも、より積極的に続けていければと考えております。

湯本市長：読書については、効果として自分の力になるまでに時間がかかりますので、そういう意味では読書というのは、生まれてから高齢になるまで、一生必要なものであるということで、次回の教育大綱の中にぜひ活かして載せていくということによろしいですか。

続きまして、3の「小中学校教育の充実」について、ご意見・ご質問など、お願いします。

山本委員：部活動について、令和8年度末までに地域のクラブ活動に移行という形で進めていくということですが、生徒たちがどう思っているかということが気になります。私もずっと部活動をやっていたので、急に学校の部活動が地域移行となったときに、親の負担とかいろいろあると思いますが、その一番の当事者の生徒たちはどのように思っているのかということをお聞きしたいです。

学校教育課長：部活動の地域移行につきましては、主に学校もそうですが、来年度中学校へ入学される児童の保護者の皆さんにも学校の部活動の状況についてご説明させていただいており、先生や保護者の皆さんを通して児童にも話は伝わっているものと思います。児童を対象に特別に説明はしていませんが、間接的ですが説明は随時させていただいているところであります。

斎藤委員：思春期の子ども達は少しいかがわしい動画であるとか、危険な勧誘の恐ろしさ、それを家庭内でしっかりと守るとか、話し合いをする機会を持ってもらいたいということがすごく気になります。スマートフォンの会社が、こういうのは危ないとか、そういう講座を設けてもらって、学校でみんなで共有してもらえればありがたいかなと思います。

学校教育課長：主にそうしたそれぞれの状況につきましては、学校で対応いただいているところです。資料の表にもありますとおり、スマートフォンの所持率は、中学生になれば56%、約半数近くというような形になってきています。家庭でも使い方ですとか、お子さん達に注意を促していただける、学校からも発信してもらえるようお願いしていきたいと考えております。

湯本市長：スマートフォンの所持率が書いてありますが、小学生・中学生が学校へ来たときにそのまま持ち込んでもいいのか、どこかで預かる場所があつてそこへ置いておくとか、学校はどのように決めているのですか。

学校教育課長：学校への持ち込みはないと聞いています。

柴本教育長：令和6年度予算、令和7年度の新年度予算についても、市長に大変ご理解をいただき、人の配置ですとかそうしたことも配慮いただき、本当にありがたく思っているところです。この背景としまして、平成28年に公布された教育機会確保法というものがあり、これは要するに社会的に多様な場での学びということが広く認められるようになってきた。こうしたものができたところに、令和2年からコロナの影響が出てきてしまい、子ども達が学校に登校するという結果は、そこを重視するわけではなく、多様な学びという部分が選ばれてきている。その中で中野市ではコロナ禍において、令和2年から小中学生の不登校の例が増えてきているというような状況になっております。今年度から教育支援コーディネーターを指導主事の和田先生にやっていただきながら、不登校児童生徒の多様な学び場の支援を行う体制づくりを行っております。それを手がけたことにより、目に見えてこうなったという、そうした大きなものはありませんが、まず1点は、1学年複数学級あり、不登校の子ども達を受け入れることができなかつた高社小学校に、「和」という部屋なごみを作つて、1人市の職員OBに入つていただいたところ、かなりの効果があり、家から出られなかつた子が、そこに来られるようになった、やはりそうした場所を作れた人的配置をするだけの予算をいただけた、これがまず一番大きなことかなと思っております。また、教育委員会の学

校教育課の中に支援員を置いています。通常であれば、それぞれの勤務先は学校になりますが、その所属が学校ではなく教育委員会に2人置いています。これが連携を深める1つの要素になっており、またコーディネーターがいろいろ回っていただいた中で、登校支援情報共有会を今年は5回開く予定で、そうしたことをしながら、個々の学校が孤立することなく、横の連携が取れて悩みごと相談ができ、先生方も自信を持って、そうした先生と接することができるようになったとか、そうした効果が出てきているということで、私ども教育委員会とすれば、学校に任せきりにするのではなく、市教育委員会としても問題を共有したいと、そういう考え方で始めたわけでございます。本当にその辺の成果が出てきているのかなど。100人がゼロになるとか、そうしたことは当然ありませんが、地道にそうしたまづ先生方が対応していく、それぞれの学校で対応していく自信にもなっているというようなどころもありますので、その支援会議、情報の共有化の必要性をすごく感じたところです。それには人を配置しなるとなかなかこうした対策もできないというところがございますので、こうしたことについてもまだ今年始めたばかりですので、またここで検証しながら、令和7年度以降、よりよい体制ができるようにしたいと考えております。

小野教育長職務代理者：この小中学校教育の充実というのは、次の教育大綱の中で、全部重い柱になってくる事項かなと個人的には思っています。先ほど教育長からもお話があった、不登校への対応、それから部活動の地域移行、教職員の働き方改革、英語教育、ICT教育、新しい時代になって取り組まなければならない課題は大変多いわけです。そこでプラスして考えておかなければいけないと思うのは、今県でも国でも新しい教育の方向を模索し始めていて、県で始めた「トコトン」で、新しい教育システムのチャレンジが始まろうとしています。そういう教育の新しい流れ、個に対応して学びたいことを学ぶとか、或いは学校の今までの規定の枠を外して楽しい学校にするというような、そういう漠然とした目標ですけれども、そうした方向へ教育が少しずつ動いていくということが予想されます。そうしたことに対しても、市の教育大綱の中ではしっかり受けとめて、中野市としてはこの方向性をどう考えるのか、昔からやっている読書であるとか、キャリア教育を大事にしてほしいと先程話しましたが、それとはまた別に、新しい時代の教育の中で、やはり市としても、これを踏まえて、学校の方でこんなふうに改善していかなければいけないことについても準備していきたいなと思います。

柴本教育長：学校施設の計画的な整備・改修については、小中学校の長寿命化計画を策定して進めているところです。トイレ洋式化改修は市全体的な予算の中で考えていかなければいけないことですが、学校訪問した際に、ある女性用トイレを生徒に確認してもらったところ、洋式トイレが2つ、和式トイレが2つありましたが、子ども達は和式トイレを使わないそうです。休み時間が限られている中で少し大変かなというような話も聞きましたが、お子さん達も少しそういうような部分で何かあるといけないので、これは今後、少しずつ中学校区単位ですとか、市長の方にもまたご相談申し上げながら、地道に改修をしていかなければいけないと考えております。

湯本市長：それでは次に、4の「社会教育・生涯学習の充実」について、ご意見・ご質問など、お願いします。

山本委員：図書館サービスの充実ということで、昨年図書館がリニューアルされましたが、利用者が増えたりとか、地域住民の方の反応について、教えていただければと思います。

図書館長：基本的には良好に、綺麗になった、素敵になったと言われています。児童書の関係で、開架蔵書数が少し減ってしまいましたが、空間が広がったということで、新たな世代、新しい利用者が増えたということはありません。今まだ4ヶ月ぐらいですが、一応今のところ、よい評価の話を聞いております。また、ソロワークスペースとビジネスマンといった方につきましても、これからどんどん宣伝をしていきたいと考えております。利用形態の関係は逐次調査していきたいと考えております。

湯本市長：人数は去年より大体1割増えたとか、逆に20%減ったとか、そうしたことはどうか。

図書館長：人数は把握していませんが、土曜日・日曜日の利用者は増えているような感じがしています。

湯本市長：最後に、5の「文化財の保護と活用」について、ご意見・ご質問など、お願いします。

山本委員：旧山田家住宅についてですが、教育委員として昨年見に行かせていただいて、地域の方とか観光客がもう少し興味が湧くような発信がないとなかなか行きづらいと思うので、今後そうした対応策があるのかなと思いました。

生涯学習課長：今年度オープンしまして、入場者の関係ですが、令和7年1月現在で、まだ274人ということで、大分少ないですが、今後そうした中で、宣伝等いろいろやっていきたいと思っております。今月の「広報なかの」でも宣伝させていただきましたが、生涯学習の関係でも講座を提案させていただきますので、そうしたところでも周知徹底して進めていきたいと考えております。

山本委員：学校では見学をしたりしているのでしょうか。

生涯学習課長：平野小学校の先生に見学をしてもらっています。教材としてうまく利用してくださいということで、宣伝をさせてもらっています。そうしたものを来年度につなげていければいいかなと思っています。

湯本市長：山本委員の目から見て、この施設の活用の仕方について、提案があればお願いします。

山本委員：庭が結構綺麗でしたので、お茶ができるとか、もう少し見るところがないと、行ったときに少し見て、この中よくわからないと言っではいけないですけど、倉庫を見て、もう少し展示物がないと、お金を払うとなると、他の所へ行こうかという選択肢が増えてしまうので、そういう意味でももう少し展示の充実であったり、もっといろいろな所を見せてくれると面白いのかなと、行ってみようかなと思います。

斎藤委員：旧山田家住宅ですけど、道路沿いの所で白い壁があって、何か入ってみたいな、何があるのだろうと言っって、去年見学に行っって、もう少し工夫した方がいいかなと思っいました。また、ふるさとパークとアーチェリー場ですが、昨年アーチェリー場を新しく作られましたが、あの通りはわかりますが、どうやって下に降りたらいいかとか、アクセスとか案内板、ふるさとパークもそうですけど、案内板が少なくて、どうやって行ったらいいのかなということが少し気になりました。

湯本市長：案内板をできたらもっとつけてもらいたいと、また、料金が一般300円で、それもわからない方が結構いらっっしゃいますから、そのあたりの対応をよろしくお願っします。

## (2) 中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針の改訂について

学校教育課長が資料3・資料4に沿っって説明

湯本市長：令和12年度の小学校1年生が194人。令和6年の<sup>ひのえうま</sup>中野市の出生数が174人。令和8年は、迷信と言われっていますが、60年に1回の<sup>ひのえうま</sup>丙午の年になります。60年前の丙午の年の合計特殊出生率は1.58。その前年が2.14。60年経過すれば、今の世代はそういうことにはおそろくこだわらないと思っいますが、令和8年がそのまま普通の推移でしたら迷信がなかったと。令和8年、あと2年経ったときにその時だけ全国的にその前後の年より大きく落ち込むようでしたら、令和8年の出生の子どもが減る可能性があつ2年後に出てくるかなと推論できるような状況であります。日野小学校は学年で2人、1学年1桁という数字が並んでいますが、今後はこの1桁の児童のクラスが増えていく可能性がなきにしもあらずということが読み取れるかと思っます。

教育委員の皆の中で、この基本方針の改訂の話は了解されてるごとと思っますので、今後、地域の皆さんへの説明など進めただけければと思っます。

本日の会議は、教育委員の皆さんから貴重なご意見をいただきましたが、今後も教育委員会と連携して、教育行政を推進して参りたいと思っますので、よろしくお願っいたします。